

学位審査基準

【修士論文】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 論文の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 論文で使用する図表、文章表現、文献の引用が適切に行われており、整った論文となっている。
【論文作成能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

【修士設計】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。
【主体性】
2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。
【テーマ及び課題設定の妥当性】
3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。
【調査・研究の適切性】
4. 設計主旨の構成、論述が明確で、論理的な展開がみられる。
【論旨の妥当性】
5. 設計の方法が具体的かつ明確であり、内容が設計図書内に適切に表現されている。
【設計能力】
6. 研究内容に独創性がみられる。
【独創性】
7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。

【博士論文】

1. 申請者が主体的に取り組んだ研究または特定の課題の成果としてまとめられている。

【主体性】

2. 研究テーマまたは特定の課題が学術的、社会的意義を有するテーマとして設定されている。

【テーマ及び課題設定の妥当性】

3. 資料収集・調査（先行研究含む）、実験等の分析、処理が適切、かつ十分になされている。

【調査・研究の適切性】

4. 論文の構成、論述が明確で、論理的な展開に一貫性がみられる。

【論旨の妥当性】

5. 論文で使用する図表、文章表現、文献の引用が的確なものであり、論旨が整った論文となっている。

【論文作成能力】

6. 研究成果が独創性、新規性を含んだ内容となっており、当該分野の発展に貢献できるものとなっている。

【独創性・新規性・有効性】

7. 最終試験における口頭試問において適切な応答が行われている。